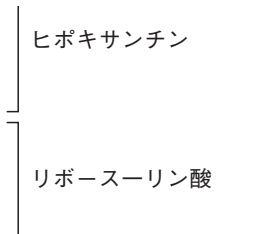
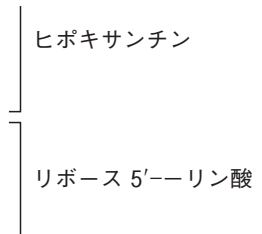
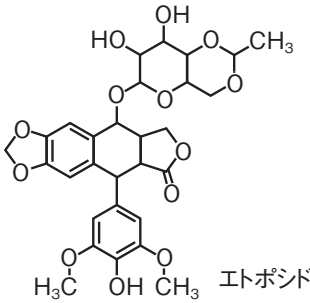
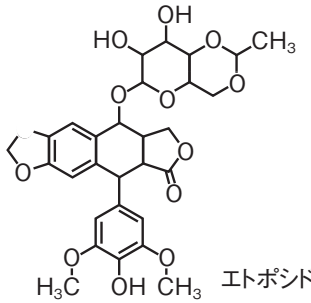
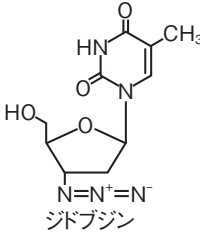
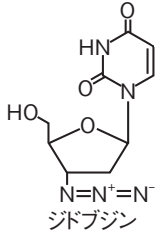
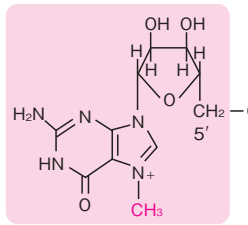
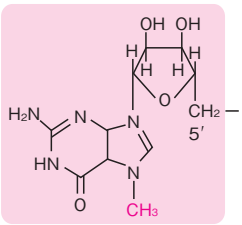
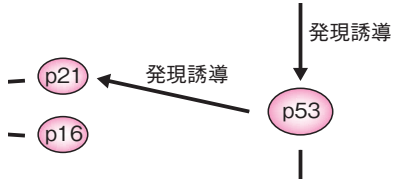
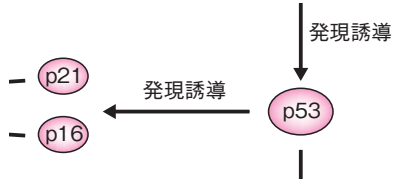




薬学のための分子生物学 (第2版) 訂正表

(2019年8月30日第2版1刷発行分)

(2021年2月更新)

	正	誤
p.39 ↓ 5行～7行	1本の染色体は1本の直鎖状の二本鎖DNAからなっており、長短長さの異なる22本の常染色体と2本の性染色体にヒト染色体DNA (32億塩基対)のゲノム情報が分けられている。	1本の染色体は1本の直鎖状の二本鎖DNAからなっている。したがって、ヒトゲノムDNA (32億塩基対)は長短の23本のDNA鎖に分断されているといえる。
p.49 図 2-29 (a)		
p.50 ↓ 1行～2行	イノシンーリン酸 (IMP) はイノシン酸ともよばれる。	イノシン 5'ーリン酸はイノシン酸 (IMP) とよばれる。
p.93 エトポシドの構造式	 <p>エトポシド</p>	 <p>エトポシド</p>
p.99 ジドブジンの構造式	 <p>ジドブジン</p>	 <p>ジドブジン</p>
p.123 図 4-23 7-メチルグアノシン	 <p>7-メチルグアノシン</p>	 <p>7-メチルグアノシン</p>

p.194 ↓ 11行 ～12行	次いで活性化したAktを介してmTOR (<u>m</u> echanistic <u>t</u> arget of <u>r</u> apamycin, エムトアまたはエムトール) やBadがリン酸化され、それぞれ生存シグナル	活性化したAktはいくつかのタンパク質をリン酸化するが、主要なものはmTOR (<u>m</u> ammalian <u>t</u> arget of <u>r</u> apamycin, エムトール) とBadであり、それぞれ生存シグナル
p.194 ↓ 14行	mTORは、セリン/トレオニン型のプロテインキナーゼで、活性化されたmTORは	mTORは、セリン/トレオニン型のプロテインキナーゼでAktによるリン酸化で活性化され、活性化されたmTORは
p.212 図 6-33 p53 から p21 への矢印	 <p>発現誘導</p> <p>発現誘導</p> <p>発現誘導</p>	 <p>発現誘導</p> <p>発現誘導</p> <p>発現誘導</p>
p.222 ↓ 5行～6行	骨髄異形成症候群では、	骨髄異形成症候群では、
p.259 図 7-25 中央部	 <p>RISC-siRNA の複合体</p> <p>切断</p>	 <p>RISC-siRNA の複合体</p> <p>切断</p>